

令和 7 (2025) 年度大学院教育学院修士課程第 2 次入学試験問題

教育行政学

(250 点満点)

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題 1 2006 年に国連において「障害者の権利に関する条約」が締結され、日本政府も同条約を批准している。以下の資料は、同条約第 24 条、国連障害者の権利に関する委員会の第 1 回日本政府報告に関する総括所見、中央教育審議会特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告の抜粋である。国連と日本政府の間で、インクルーシブ教育および特別支援教育について見解の相違が見られる。どのような相違があるかを説明し、それについて論評しなさい。

<資料>

「障害者の権利に関する条約」2006 年 (政府訳、一部改変)

障害者の権利に関する委員会(第 27 会期)「日本の第 1 回政府報告に関する総括所見」2022 年 (政府仮訳) 抜粋

中央教育審議会初等中等教育分科会 特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告「報告共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」2012年 抜粋

問題2 日本では公立義務教育諸学校の教職員を確実に確保、配置するために「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」を定めている。この法律の要点について説明し、その意義と課題を論じなさい。

問題3 日本の教育制度・行政に関わる以下の4つの用語のうち、2つを選んでその意味や仕組みと課題・論点などについて説明しなさい。(選択した問題番号を明記のこと)

1. 高等学校等就学支援金制度
2. 助教諭
3. スクールソーシャルワーカー
4. 子ども・若者支援地域協議会

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

学校経営論

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 2006年に国連において「障害者の権利に関する条約」が締結され、日本政府も同条約を批准している。以下の資料は、同条約第24条、国連障害者の権利に関する委員会の第1回日本政府報告に関する総括所見、中央教育審議会特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告の抜粋である。国連と日本政府の間で、インクルーシブ教育および特別支援教育について見解の相違が見られる。どのような相違があるかを説明し、それについて論評しなさい。

<資料>

「障害者の権利に関する条約」2006年（政府訳、一部改変）

障害者の権利に関する委員会（第27会期）「日本の第1回政府報告に関する総括所見」2022年（政府仮訳）抜粋

中央教育審議会初等中等教育分科会 特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告「報告共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」.2012年 抜粋

問題2 エイミー・エドモンドソンらによって提唱される「心理的安全性」について、この概念を正しく説明すると共に、日本の学校経営においてこの概念が持つ意義と考え得る課題について、自身の考えを論じなさい。

問題3 日本の学校経営に関わる以下の4つの用語のうち、2つを選んでその意味を説明すると共に、その用語に関わる課題・論点について、具体例を交えて論じなさい（選択した番号を明記すること）。

1. 教育の学習化
2. 内外事項区分論
3. 文化的リーダーシップ
4. 開かれた学校づくり

令和7（2025）年度 大学院教育学院修士課程 第2次入学試験問題

高等継続教育

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 別紙にある課題文1は、P. J. パーマー著・吉永契一郎訳『大学教師の自己改善 教える勇気』玉川大学出版部 2020年（原題：Parker J. Palmer, *The Courage to Teach, Exploring the Inner Landscape of a Teacher's Life*, 1998.）の一部（193-196頁）である。これを読み、以下の問に答えなさい。

問1 著者が述べる「真実を求める共同体」とはどのようなものか。あなた自身の言葉でまとめなさい。

問2 人間が「真実を求める共同体」に参加することの意義はどのようなものか。あなたの意見を述べなさい。

問題2 別紙にある課題文2は、ユネスコ「高等教育教員の地位に関する勧告」（文部科学省仮訳。原文：UNESCO, *Recommendation concerning the Status of Higher-Education Teaching Personnel*, 1997.）の一部である。これを読み、以下の問いに答えなさい。

問1 課題文2に関連して、近年各国で問題となっていること的具体例を挙げ、論点を整理しなさい。

問題3 次の語句のなかから二つを選んで解説しなさい。選択した問題番号を明記すること。

1. 第三段階教育
2. 研究不正
3. 国際機関と大学改革
4. モラトリアム

課題文 2

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程 第2次入学試験問題

青年期教育論

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 別紙にある課題文は、P. J. パーマー著・吉永契一郎訳『大学教師の自己改善 教える勇気』玉川大学出版部 2020年（原題：Parker J. Palmer, *The Courage to Teach, Exploring the Inner Landscape of a Teacher's Life*, 1998.）の一部（193-196頁）である。これを読み、以下の問に答えなさい。

問1 著者が述べる「真実を求める共同体」とはどのようなものか。あなた自身の言葉でまとめなさい。

問2 人間が「真実を求める共同体」に参加することの意義はどのようなものか。あなたの意見を述べなさい。

問題2 若者とボランティア活動にかかわって以下の問いに答えなさい。

問1 若者によるボランティア活動の事例をあげ、その特徴を述べよ。

問2 ボランティア活動をめぐる議論の争点をあげ、それについて論じよ。

問題3 次の用語・事項の中から2つを選んで簡潔に説明しなさい。解答用紙に、選択した番号を明記すること。

1. ポール・ラングラン
2. 社会教育法
3. NPO
4. 勤労青少年ホーム

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

産業教育

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 情報化（AI や IoT など）の進展によってもたらされる社会の変化を具体的に例示し、それに対する教育の役割について考察しなさい。

問題2 日本の企業内教育について、まず全般的な特徴を述べ、次に特定の産業の事例について具体的に述べなさい。

問題3 次の事項の中から3つを選んで説明しなさい。選択した番号を解答用紙に明記すること。

1. 養成工制度
2. 専門学校（戦後日本）
3. 職業指導
4. ライン・スタッフ制
5. 社外工

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

職業キャリア教育論

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 情報化（AI や IoT など）の進展によってもたらされる社会の変化を具体的に例示し、それに対する教育の役割について考察しなさい。

問題2 日本における大学生の新卒採用の特徴を他の諸外国と比較して説明するとともに、その特徴が成り立っている要因を説明しなさい。また、その特徴がもたらすメリット、デメリットを説明しなさい。

問題3 次の6つの語句の中から3つを選んで簡潔に説明しなさい。選択した語句の番号を明記すること。

1. 情報の非対称性
2. 早期選抜
3. エンプロイアビリティ（Employability）
4. ジェネリック・スキル
5. シグナリング仮説
6. 重回帰分析

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

教育社会学

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 情報化（例：AIやIoTなど）の進展によってもたらされる社会の変化を具体的に例示し、それに対する教育の役割について考察しなさい。

問題2 文化的再生産論の意義と問題点について論述しなさい。

問題3 次の語句の中から、2つを選び説明しなさい（選択した番号を解答用紙に明記すること）。

- ①ジェンダートラック ②生活史 ③言語コード理論 ④葛藤理論

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

職業能力形成論

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 情報化（AI や IoT など）の進展によってもたらされる社会の変化を具体的に例示し、それに対する教育の役割について考察しなさい。

問題2 日本企業における正規雇用者での男女間の賃金格差について、格差が生じる要因を、企業の雇用管理の点から論述しなさい。

問題3 次の事項のなかから3つを選んで説明しなさい。選択した問題番号を解答用紙に明記すること。

- ① 企業別労働組合
- ② 職場のハラスメント
- ③ ジョブ型
- ④ 男女雇用機会均等法
- ⑤ ディーセント・ワーク

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

発達心理学

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 心理学研究における標本抽出法（sampling design）を1つ挙げ、その利点と限界について述べなさい。

問題2 次の6つの用語から3つ選び、それぞれの意味を簡潔に説明しなさい。選択した語の番号を明記すること。

1. 生徒指導 (student guidance)
2. 関係性攻撃 (relational aggression)
3. 前操作期 (preoperational period)
4. アフォーダンス (affordance)
5. 養育態度 (child-rearing attitude)
6. 普遍文法 (universal grammar)

問題3 日本の学校教育における問題を1つ取り上げ、それについてどのような研究がなされており、何が分かっているのか、またどんな課題が残されており、今後、どのような研究が必要であるかを述べなさい。

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

言語発達論

（250点満点）

以下の問題1～3のすべてに答えなさい。

問題1 心理学研究における標本抽出法（sampling design）を1つ挙げ、その利点と限界について述べなさい。

問題2 次の6つの用語から3つ選び、それぞれの意味を簡潔に説明しなさい。選択した語の番号を明記すること。

1. 生徒指導（student guidance）
2. 関係性攻撃（relational aggression）
3. 前操作期（preoperational period）
4. アフォーダンス（affordance）
5. 養育態度（child-rearing attitude）
6. 普遍文法（universal grammar）

問題3 次の英文を読み、全文を和訳しなさい。

出典： Wenger, E. et al. (Eds.) (2014). Learning in landscapes of practice: Boundaries, identity, and knowledgeability of practice-based learning. Routledge. (p.13)

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

障害者臨床心理学

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問1 「障害者権利条約」について、2022年9月国連勧告を受けた日本の精神医療の現状について述べなさい。その上で、ケアの担い手として、どのような応答責任を担うことができるか。あなたの考えを600字以内で述べなさい。

問2 以下の4つの単語をすべて用い、その意味を記しながら、初回カウンセリングにおけるカウンセラーの営みを400字以内で述べなさい。

(Sheldon J. Korchin 1976/1980) *

*村瀬孝雄監訳（1980）現代臨床心理学. p165-192, 弘文堂.

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

身体運動支援システム論

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 ヒトの運動制御について、以下の設問に答えなさい。

- 1) 神経系が身体の運動を制御する上では、様々な問題が生じる。制御上の問題となる点を2つ以上挙げ、その詳細を説明しなさい。
- 2) フィードフォワード制御とフィードバック制御について、それぞれの特徴を説明しなさい。
- 3) フィードフォワード制御においては、「内部モデル」の存在が想定されている。このモデルについて説明しなさい。

問題2 仮想現実（Virtual Reality: 以下VR）の技術を用いた運動学習について、以下の設問に答えなさい。

- 1) VR技術を用いた運動学習について、その代表的な先行研究を一つ取り上げ、その内容を具体的に説明しなさい。
- 2) 運動学習にVR技術を導入する利点、また導入する上で注意すべき点を説明しなさい。

以上

令和7（2025）年度大学院教育学院修士課程第2次入学試験問題

多元文化教育論

（250点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。それぞれの問題に別の解答用紙を使うこと。

問題1 次のページの資料は、2023年6月に出た米国連邦最高裁判所の判決を報じるニュース記事です。この資料を読み、「積極的差別是正措置」（アファーマティブ・アクション）の意義や期待される効果、また問題点について、あなたの考えを述べなさい。

問題2 現在、日本では大都市圏を中心に、子どもの義務教育の段階から私立学校を選ぶ家庭が増えています。また、子どもに英語を早期から学ばせる目的で、海外の学校を選ぶ家庭もあります。こうした学校選択の多様化には、どんな背景があると考えられますか。また、こうした現象の進行は、子どもや社会にどんな影響をもたらす可能性があるのでしょうか。あなたの考えを述べなさい。

問題3 次の5つの用語のうち、2つを選んで説明しなさい。解答用紙に選択した番号を明記のこと。

1. 本質主義と非本質主義
2. オールドカマーとニューカマー
3. プッシュ要因とプル要因
4. エスニック・アイデンティティ
5. 想像の共同体

問題 1 資料